

## 2013年 新春ご挨拶

一般社団法人 日本加工食品卸協会  
会長 國分 勘兵衛

新年明けましておめでとうございます。

2013年の年頭にあたりご挨拶申し上げます。

全国各地の皆様におかれましては、つつがなく新春をお迎えのことと存じ、心よりお喜び申し上げます。

昨年の日本経済は、東日本大震災からの復興需要が下支えして、年度半ばまでプラス成長を達成し、緩やかな景気回復を見込めるような状況でしたが、欧州債務危機に端を発した海外景気の変調や急激な円高、不透明な原子力発電所の再稼働、日中関係の緊張化などから重荷を抱えての越年となりました。食品業界も天候不順など明るい材料が少ない中で個人消費の減速感とともに低価格競争が広がり、デフレ基調からの脱却が出来ないまま厳しい環境が継続しました。

こうした中で弊協会は、昨年4月より公益法人制度改革への対応として、名称を一般社団法人日本加工食品卸協会に変更して新たなスタートをきり、制度改革の理念に基づき事業活動行い、食品流通のサプライチェーンの協働体制の基盤整備に取り組みました。

さて本年は、政局や消費税の地ならし、環太平洋経済協力協定（TPP）参加の行方に加え、医療・介護・新エネルギー、農業などを着実に成長分野に育てられるかどうかなど、将来の日本の姿を決める岐路にあると思われまます。我々食品流通に携わる業界として関連する事項も内容も多いので、この動向を注視していく必要があると考えております。少子高齢化の影響から恒常的に需給ギャップを抱える食品業界は、今後も厳しい状況が続くことが推測されますが、業界としてこの難局を好機に変えるには、「価値」と「価格」のバランスを梃子にデフレの流れを変えていく方向性が肝要かと考えます。特に本年は、消費税の増税前に節約志向にも対応した小容量化や新商品の開発に拍車がかかると思いますので、こうした流れを正しく知り、懸命に対応して卸ならではの事業領域の強化に取り組んで、卸の存在価値の向上に努め、食品流通の健全な発展に貢献して参りたいと考えておりますので、本年も変わらずご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。